

加藤健一 煙が目にしみる 事務所

言わせて! 今日芝居 五十字劇評 No.41

【五〇代】

▼エンディング間近、舞台が霞んで見えづらくなりました。煙が目にしみたのかと思つたのですが、亡くなつたお父さんを思う家族愛に涙が溢れたのでした。感動をありがとうございます。

(男性)

▼加藤さんのおばあさん役があまりにもはまっていて感動しました。ラストの歌

が、とても心にしみました。

(女性)

【六〇代】

▼4か月ぶり演劇。「観ることができて本当に良かった」。目にしみた煙の正体は。涙が止まらなかつた。60数年の出来事が頭を駆けめぐる。死にたいと思うことも。でも今こうして生きている。

生きていてよかつたと本当に思う。人生の残り時間はあとどれくらいあるのだろうか。ただ今いえることは、人間が人間の尊厳を奪われることなく生きることに当たり前の社会にするために仲間と続けていること。そのことに残された時間を捧げたいなと。

(男性)

▼観たい。演じたい。芝居が好き。メリハリの確かな演技。一

期一会の出会い。ありがとうございます。

(女性)

▼加藤健一『おばあちゃん』のイタコぶりは『おどろおどろし』過ぎず適度で、何か可愛いらしくて良かった。

(女性)

▼4ヶ月ぶり、期待していた以上のお芝居でした。マスクの中で笑って、ウルツトした。最後の歌も心に残つた！市民劇場の思いがまつてます。

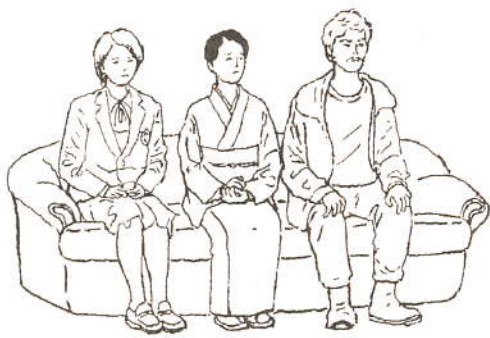
(女性)

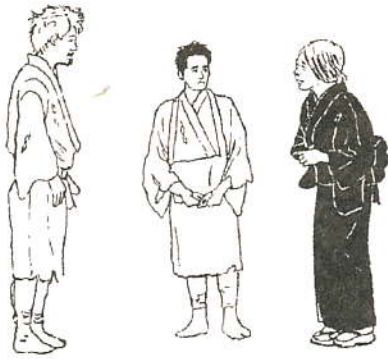
▼この作品は、脚本が良く出来ている。葬儀コメディという特異な設定が秀逸。一番印象に残つたのは、おばあちゃんが巫女(いたこ)になり、家族の想いを故人に伝える場面。特に妻の「もっと一緒にいたかったのに、先に逝ってしまった。バカ、バカ、バカ」という台詞。加藤健一の達者な演技をはじめとして、出演

者の安定した演技で、芝居全体を安心して観られた。こういう大団円の終わりが方っていいなあ！

▼久しぶりの観劇でとても楽しかったです。急に死を迎えた故人と家族には言い残した事があり、それを「おばあちゃん」が不思議な力でつなげてくれた。互いに理解した故人と家族は満足して葬儀を終える。気持ちが癒される芝居でした。

(女性)





▼やっぱり芝居はいい。行って良かった！泣き笑いの一時間半。加藤健一座(？)の心意気が目にも心にも沁みた！ (女性)

▼前例会から4ヶ月。実際の時間よりも長く感じ、不安もあった。実施すると決まった時、喜びと同時に、絶対感染を広げないと決意を新たにした。大ホールは大味の懸念もあったが、観劇後は演じる側も見る側も、生の舞台をやっている、一

緒に削り上げているという喜びが大きかった。死者たちとボケている(？)母がやりとりをする、この時期としては強烈な「ブラック・ジョーク」に「まっ、いいか」と、しばし、大口を開けて笑わせてもらった。終演後のうれしいハプニング！加藤さんと役者さんたちの『時代』の熱唱は心にしみた。あらためて、生の舞台の良さを実感しました。ありがとう！ (男性)

【七〇代】

▼ステージいっぱい喜びを表すキャストの姿に涙。支えているスタッフへの涙と拍手！そして、事務局始め幹事・担当サークルの皆さんへの感謝です！生の声、息づかい、はじける笑いが、私の乾ききった心にしみ入りました。ありがとうござ

いました。 (女性)

▼加藤健一芝居のなかで一番良かった。いつもオーバーな感があるが今回は自然の流れにクスツと笑えるところがあり、死者はこんなかなとも、日常続きの芝居、たまには良いな。 (女性)

▼文化会館大ホールの後列、セリフが聞こえないのではと心配しながら会場へ、懐かしいテーマ曲で幕開け、舞台上に集中セリフが聞こえる・聞こえないがプロだ。笑わせ・ちよっぴりしんみり。久々のお芝居のせい

か、内容もすべて良く見えました。お芝居が終わり、こんなときだからと出演者の皆さんで歌のプレゼントに、感激しました。

(女性)

▼身近な人が亡くなっからわかる、その人の生き様や優しさが心にしみた。私

がボケても、故人とは心を通わせたいなあ。

【年代・性別不明】

▼カトウさんのおぼあちゃんサイコーにおもしろかったです。78歳の父と母に優しくしようと思いました。こんな風に芝居が観れることがしあわせだなーと感じました。劇団の方、市民劇場の方、本当にありがとうございました。ございました。

編集スタッフから

世界的規模のコロナ禍での例会。言外に、例会に対する不安と、喜びと、実施出来たことへの感謝が読み取れます。これは貴重な感想だと思えます。できればもっと多くの会員の声が欲しいですね。今日のお芝居はいかがでしたか。劇評は自分のための心の記録だと思えます。ぜひ投稿を！